

F21 全員不起訴処分決定！嶋田一味らによる組織破壊攻撃を粉碎！ ～妨害をはねのけ「たしろ かおる」を国政へ～

F21（ファミリー・フロント・ファイト・フレンド）が土屋に告訴されていた、いわゆる「土屋問題」で、2009年11月30日、長野地検が不起訴処分としていたことが判明しました。この間、私たちは組織の総力を挙げ、F21・家族を支え抜き、嶋田一味（現ジェイアール労組）・警察権力の組織破壊攻撃を打ち砕いてきました。この闘いに勝利できたのは、全国から物心両面にわたる絶大な支援・連帯があったからであり、すべての仲間の皆さんに心から感謝申し上げます。

事の発端は、2003年5月に開催された本部運車部会常任委員会でした。「組織問題」をめぐる議論の影響で「抑うつ神経症」となったとして、長野地本・土屋らは本部に対して執拗に事実解明と謝罪を求めてきました。本部は調査委員会を設置し、関係者への聞き取りなど真摯に事実の解明を行い、「抑うつ神経症」に至る事実は何ひとつなかったことを確認しました。本部は土屋が入院した経過を踏まえ、見舞金などを支払ったうえで双方合意し、土屋は運転士に復帰して、全ては解決したのです。

ところが土屋は2006年9月6日、佐久警察署に本部運車部会常任委員会に参加していた22名を告訴しました。同年6月、峰田・小林・本間ら（現在ジェイアール労組幹部）は「JR東労組を良くする会」をでっち上げ、JR東労組破壊策動に本格的に手を染めたのです。さらに「松崎元顧問逮捕」のシナリオの下、嶋田一味は『週刊現代』に登場し、警察権力・西岡らと一体となってJR東労組破壊を企てたのです。土屋が行った告訴もこの策謀の一環に他なりません。

私たちは、敵の攻撃の狙いを見極め、F21を包み込み、組織を固め反撃してきました。F21の仲間は、謂れなき容疑への怒りと東労組を守り抜くために組織の先頭でたたかい抜きました。とりわけ緊張が極度に高じた警察の事情聴取にも毅然と立ち向かい、不起訴処分を勝ちとりました。

全組合員の皆さん、支援・連帯の闘いを共にたたかった仲間の皆さん！F21の不起訴処分を勝ち取った成果を確認し、JR総連・JR東労組へのあらゆる組織破壊を許さないたたかいを断固推し進めていこうではありませんか。そしてJR浦和電車区事件・蒲郡駅事件の上告審勝利、早期職場復帰をかちとるため奮闘し、それらの力のいっさいを「たしろ かおる」を国政に送り出すためのたたかいに遺憾なく発揮し、勝利しようではありませんか！

2010年2月1日

東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員会